

## 特集

- ・ ケント紙、尾瀬の木道エコペーパー キャンペーン
- ・ コート紙の話
- ・ セグウェイ

## ケント紙・尾瀬の木道紙キャンペーン中！



「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、季節は秋へと移り変わりました。今年はあまり残暑も厳しくはなく、過ごしやすい秋の入りであったと思います。

そんな中、過ぎ行く夏を惜しむかのように一部の蚊はまだ活動中です。夏の虫と言えば蚊です。

私は良く蚊に刺されます。なるべく気にしないようにしていますが、やはり痒いものは痒いですね。そこで、蚊に刺されたときどうするのが効果的なのか少し調べてみました。

刺されたところに「×」印に爪あとをつけるといいと言うのをどの方も聞かれたことがあるのではないのでしょうか。私も良くやりますが、これはどうやら逆効果になることが多いようです。何の根拠もなしに刺激を与えてしまうと余計に痒みを引き出してしまうからです。

蚊(血を吸うのはメスのみ)は吸血の際、自分の唾液を対象の血管に注入し、血液を凝固させにくくします。その唾液に対するアレルギー反応が痒みです。つまり私たちは自分で自分を痒くしているとも言えます。

痒くなるのは嫌なので、では刺されない方法を考えてと思います。

血液型信仰の強い日本、A型が刺されやすい、刺されにくいと言われる事もありますが、残念ながらこれには科学的根拠がありません。

実際は、二酸化炭素排出量が多い人、つまり新陳代謝の活発な人が刺され易いそうですが、それを自分でコントロールするのは不可能です。

そこで蚊を寄せ付けない工夫をします。蚊は飛行能力が低いので、わずかな風、扇風機やクーラー程度でも飛行障害を起こします。でもこれらを長時間直接体に当てるのは体に悪いので、やはり蚊取り線香などを焚いておくのが一番簡単で効果的です。

でも刺されてしまったら？結局は、痒み止めの薬を塗るのが一番です。掻きまらぬ様、痒み止めパッチならより効果的かもしれません。

ケント紙・尾瀬の木道エコペーパーのキャンペーン中です。夏は終わってしまいましたが、キャンペーンは秋が深まるまで続きます。この機会をお見逃しにならないよう、改めてお願い申し上げます。

その他、ご不明な点やご質問等ございましたら、弊社営業までお声がけ下さい。

お待ちしております。

( K & A )

スギウラ株式会社  
営業部 営業一課  
〒370-0006  
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号  
代 表  
027-361-5808  
営業一課  
027-361-5734

Fax  
027-361-1272

当社 Web サイト  
[www.kamisugiura.co.jp](http://www.kamisugiura.co.jp)

お気付きの点や質問、  
疑問などありましたら、  
ご遠慮なく営業または、  
下記までお問合せくだ  
さい。

お問合せ  
メールアドレス  
sg-arai-yoshio  
@kamisugiura.co.jp

## コート紙の話

常日頃目にする機会の多いコート紙、今回はその話です。一般にただ「コート紙」とだけ言うと、光沢のある「グロス紙」の事を指す場合が多いです。

同じ様な薬品を塗っているはずなのに光沢の抑えられた「マット紙」と見え方が違うのは何故か？それは後者は、仕上げの段階で表面が凸凹にされているからです。その凸凹は勿論目には見えませんが、これにより紙の表面に当たった光は乱反射され、私たちの目に届く前に四散されます。そのため光沢が無いように見えます。

それに対しグロス紙では表面がツルツルになっているため、照り返し易くなり、結果艶があるように見えるのです。もう少し補足すると、光の一部は紙の中にも入り込み、そこでも拡散したりします。マット紙は内部でも乱反射が多いので、より光沢が抑えられるわけです。

そしてコート紙にもグレードがあります。上質紙ベースのそれをコート紙 A と呼びますが、表面に塗布する薬品

の量によって A 0 ~ A 3 までランク付けがされます。一番良く使われる A 2 コート（例えば三菱製紙のパールコート N 等）では、両面で 20g/m<sup>2</sup> 前後の薬品が塗られます。A 1 であるアート紙ではその倍の 40g 前後の薬品が使われます。軽量コート紙である A 3 コートでは約 15g と、その名の通り薬品も抑え気味です。

ツヤのある表面は正反射光が強くなり、マット紙は乱反射光が強くなります。正反射光が強くなると、印刷物の色そのものに光源の色が強くなり混じってくるため、本来の色調と異なって見えてきます。

また同じ光沢のコート紙でも、画線部の光沢はインキの色の濃い方がより強く感じられますが、これは心理的光沢感（客観的光沢感）と言われるものです。

以上のように、光沢と色とは一見関係ないように見えて、その実、密接なつながりがあるものなのです。

## セグウェイ

少し前の話になってしまいますが、今年 5 月に行われたシタラフェアで目を引いたのが「セグウェイ」です。ご存知の方も多いと思いますが、二つの車輪に取っ手が付いただけの乗り物で、ジャイロ等による高度な姿勢制御により体重移動のみで走り回るといふ、これまた未来感いっぱいマシンです。

日本での代理店であるキヤノンのブースで試乗車があったので早速乗ってみました。アクセルやブレーキが無いので最初は少々戸惑いますが、少し乗るともう大丈夫。体重移動のみで動くので、スキーを滑る感覚と似ています。最高速は 20 km/h まで出るようなので、ちょっとした移動には充分すぎる速度です（試乗車は最高 10 km/h に調整）。

開発された米本国内での利用は、広い工場内などを移動するのに使われているようです。日本でも百万円ほどで買えますが、対応する法律が無いので公道で走れない上に、販売は法人向けのみです。

ゴルフバッグを積めるタイプもあります。勿論ゴルフ場で使うための仕様ですが、本体重量が 50 kg を超える上、乗用カートが一般的な日本では、これまた使い道がなさそうです。

早く法整備が進んで、日本の公道でも走れるようになったら良いと思いました。でもブレーキ等が強制装備だったら、ちょっと興奮めかもしれません。

